

『国連大学サステナビリティ高等研究所で学ぶSDGs』

2017年8月。持続可能な社会の実現を目指して活動をしている大学生が、国連大学に集まりました！自分たちが実践している活動や日常の生活が、「SDGs」とどうつながっているのか、大学生として「SDGs」にどう関わるのか……専門家から学び、意見交換をし、理解を深めました。

<大学生環境研修>の様子をレポートします。



国連大学

SDGs 概要研修

国連大学の取り組みとSDGsを活用した取り組みの発信

丸山 鳴

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)
プログラム・アソシエイト

国連大学は、人類の生存、開発、福祉など国連の加盟国が直面している地球規模課題の解決に取り組むための研究や教育を行っている国際的な研究機関です。世界12ヶ国に研究拠点があり、その1つであるUNU-IASでは、「2030アジェンダ(SDGs)」、「生物多様性および生態系サービスの持続可能な活用」、「気候変動および災害リスクの軽減」を優先課題とし、国内外の主要な研究機関と協力しながら、研究を実施しています。また、科学に基づいた知見が政策立案の過程に生かされるよう発信を行ったり、国際的に重要なテーマと地域の取り組みをつなげる活動を行っています。SDGsは、それぞれ立場や背景が違う国連の193の加盟国が全会一致で採択した目標です。SDGsの17目標を活用して取り組みを整理することで、課題の解決に向けた新しい視点が生まれます。また、世界共通の言語とも言われるSDGsを活用して、取り組みを発信することで、世界中に同じ目標に取り組む仲間が見つかるかもしれません。そのような多様な仲間とパートナーシップを組み、目標の達成への取り組みを加速化させていくことが大切です。



基調講演

持続可能な社会を目指すための授業デザイン

山藤 旅間

東京都立武蔵高等学校・東京都立武蔵高等学校附属中学校
理科(生物)教諭

8年前にブータン王国を訪問し、現地の学生が勉強に真摯に取り組む姿を見て、自分が行ってきた教育を大きく変える必要性を認識しました。今の授業では、課題のみを与え生徒が自ら学びを見つけられるような授業をデザインしています。生徒達が自立して学ぶことで、学びが目的化し、問いを解決するまで学び続けるという成果が表れています。SDGsは、気候変動や、今までに経験したことないスピードの日本の人口減少など、いよいよ未来が持続可能でなくなるという背景において、行動を変える必要性を示した大事な観点です。今の教育デザインでは、若い世代が、地域、企業、NGO、NPOと協力し、大人を巻き込み、大人の行動を変えることで、社会課題の解決を目指す活動を行っています。その一環としてボルネオ島スタディーツアーを実施しています。フィールドワークを通じて社会課題を学び、若者が自分にできることを考え、社会を動かす大人たちと一緒に活動することで、社会の活性化や大人の活性化につながります。今、取り組みをされている皆さんも、今後一層活動を広げてほしいと思います。

